在籍校名　　福岡県立筑後特別支援学校
職・氏名　　教諭　横尾　真理子

研　修　報　告　書

このたび、長期派遣研修員として、下記のとおり研修をしましたので報告いたします。

記

１　研修種別

Ｄ　福岡県教育センター研修員

２　主題研修について

研究主題　「知的障がいのある生徒Ａが課題を設定し、課題解決に取り組む総合的な探究の時間
―探究シートの活用を通して―」

(1) 研究のねらい

ア　課題の背景

(ｱ) 対象生徒の実態から

本研究の対象生徒は、知的障がいを有する高等部〇学年の生徒Ａである。国語科の学習を得意とし文章作成や中学在学程度の漢字理解ができる。また、提示された学習内容や方法に沿って活動に取り組むことができるが、自分で課題を設定し課題解決に取り組んだ経験は少ない。課題を自分で見つけ出すことができるようになることは、卒業後の生活や仕事においても必要な力であると考える。

次にＷＡＩＳ-Ⅲの結果を表１に示す。言語性尺度はVC〇より、言語的な情報や自分自身がもつ言語的な知識を状況に合わせて応用できる能力は高いと考えられる。一方動作性尺度の下位検査の結果より視覚的な処理において、視覚的探索や視覚的短期記憶等に難しさがあると考えられる。よって、指導においては、全体把握がしやすい教材の構成、視覚的情報を常に確認できるような提示の工夫といった視覚的処理を助ける指導の工夫が必要であると考える。

表１　WAIS-Ⅲ　検査結果（〇年〇月実施）

※ WAIS-Ⅲの結果

(ｲ) 理論研究から

今枝らの研究では、問題解決のプロセスを「問題発見、問題理解、計画の立案、計画の実行、振り返り」に分けており、知的障がい者が問題解決に取り組む際には「問題理解」が重要としている。さらに、様々な先行研究から、知的障がい者は完成までのプランを決定して取り掛かったり、問題解決までの見通しをもったりすることに困難さがあることを指摘している。また、課題を解決するためには、課題や解決方法について意識を持続させ、活動に取り組むことが必要となるが、葉石らの研究では、知的障がい者の実行機能には全般的に弱さがあり、目的に沿って何かを成し遂げようとする際に困難が生じる可能性が示されている。以上のことから、問題（課題）理解を促す工夫と課題や解決方法について見通しをもったり意識を持続したりすることができる指導の工夫が必要と考える。

(ｳ) 試行授業から

試行授業では、ＡＬＴへ自己紹介をするという活動を通して、課題の理解のためのモデル提示と課題

や解決方法を意識し続けることができる学習シートの項目構成について検証した。モデル提示については、課題設定の際、発表の良い例と悪い例を提示したことで、生徒Ａは課題を具体的にイメージし練習や発表に取り組むことができていた。よって、モデル提示は課題を理解するために有効であると考えた。学習シートの項目構成については、本時の課題、課題の解決方法、本時の課題解決に向けた取組、振り返りの項目を一枚にまとめた。生徒Ａは、項目に沿って活動に見通しをもちながら取り組むことができていた。また、授業のまとめで本時の課題について尋ねられると、シートに書かれていた課題を確認する姿が見られた。このことから、視覚的探索や視覚的短期記憶に弱さがある生徒Ａにとって、課題解決のための項目が一枚にまとめられたシートは、活動の流れを確認したり、課題を振り返ったりする上で見やすい形式であったと考える。

イ　研究の目的

総合的な探究の時間の指導において、知的障がいのある生徒Ａが課題を設定し、課題解決に取り組むことができるために、探究シートの活用の有効性を明らかにする。

⑵　研究の構想

ア　主題の説明

(ｱ)　主題について

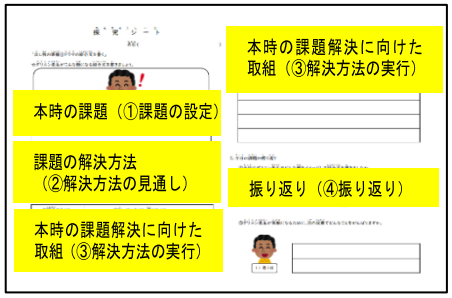
課題とは、解決すべき事柄に基づいて生徒が授業ごとに設定する学習目標のことである。課題を設定しとは、課題の具体的なイメージをもちながら、本時の課題を自分で考えることである。今枝らの問題解決のプロセスを参考に本研究の課題解決のプロセスを図１のようにする。課題解決に取り組むとは、設定した課題へ意識を持続させながら、よりよく課題を解決するために考えた解決方法を実行し、課題について振り返りを行うことである。本研究における総合的な探究の時間は、余暇活動「英語」である。生徒Ａの学年の余暇活動の目標は、「卒業後に余暇を楽しむために、好きな活動を選んで友達と一緒に取り組むことができる」である。

【課題解決のプロセス】
①課題の設定
②解決方法の見通し
③解決方法の実行
④振り返り

図１　本研究の課題解決のプロセス

(ｲ)　副題について

探究シートとは、本時の課題、課題の解決方法、本時の課題解決に向けた取組、振り返りの４項目が一枚にまとめられており生徒が学習活動を通して記入していくものである（資料１）。探究シートの活用とは、探究シートの様式の工夫と課題の設定と解決方法の見通しにおける支援である。「探究シートの様式の工夫」とは、考えた課題や解決方法に対して意識を持続し見通しをもち学習活動に取り組むことができるように課題解決のプロセスに合わせた項目を探究シート上にまとめることである。「課題の設定と解決方法の見通しにおける支援」は、次の三つを指す。一つは、課題を設定する際、課題の具体的なイメージをもつことができるようにイラストを提示し探究シート上に示すことである。イラストは課題を表す絵や写真と言葉が示されたものとする（図２）。二つは、課題の具体的なイメージや解決方法の見通しをもち課題や解決方法をシートに整理できるようにモデルを提示することである。モデルは本時の課題を意識している例と意識できていない例の二つを提示する。三つはシート上にあるイラストや提示されたモデルを手掛かりにしながら、自分で課題を設定できるように段階的に教師からの課題の提示を減らすことである。



資料１　探究シートの様式

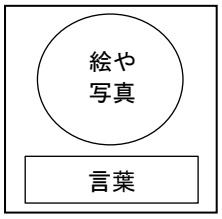


図２　イラストの構成

イ　研究の内容

研究構想図を次頁図３に示す。探究シートの様式の工夫と課題の設定と解決方法の見通しにおける支援を通して、自分で課題を設定し、課題解決に取り組む姿を３段階で目指す。第１段階では、提示された課題を意識し、課題解決に取り組むことができる姿を目指す。「提示された課題を意識」するとは解決方法の実行や振り返りでイラストについての発問に答えることができることである。課題の設定で、生徒が２択から選んだイラストを探究シート上に提示することで課題への意識を持続させな

がら活動に取り組むことができると考える。また、課題の具体的なイメージをもち解決方法を考えることができるように課題や解決方法に関するモデル提示を行う。課題は、イラストの提示後、全文提示する。第２段階では課題の具体的なイメージをもち選択肢を基に課題を設定し課題解決に取り組むことができる姿を目指す。「課題の具体的なイメージをもち」とは、課題の設定の際に、目指すイラストを選んだり、解決方法の実行や振り返りでイラストについての発問に答えたりすることである。「選択肢を基に課題を設定し」とは、提示されたイラストやモデルを参考に、選択肢から自分で言葉を選び課題を考えられることである。選択肢は、イラストの言葉を使ったものとする。イラスト提示では、前時と本時の目指すイラストを提示して、その２択から選ぶことができるようにする。また、モデル提示において、目指すイラストを選ぶことができるような発問をする。第３段階では、課題の具体的なイメージをもち自分で課題を設定し、課題解決に取り組むことができる姿を目指す。ここでの「自分で課題を設定し」とは、自分で考えたイラストを基に、自分で課題を考えることができることである。課題の設定後は全段階において探究シートに沿って学習を進めていく。

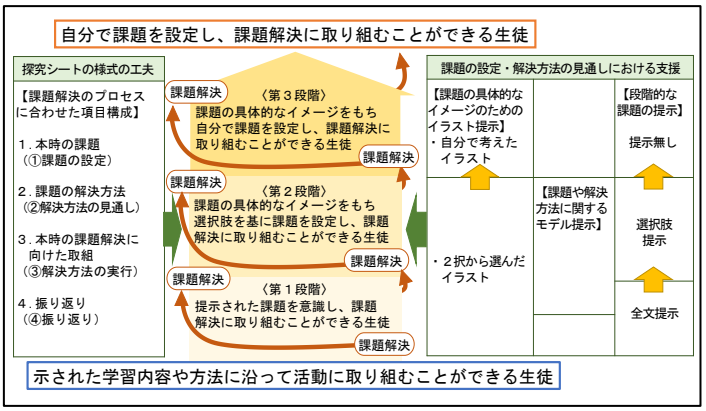


図３　研究構想図

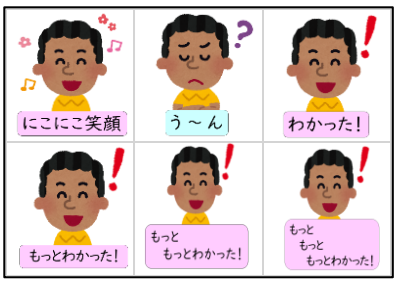
これらを踏まえて、この研究における生徒Ａの目指す姿を次のように整理する。

○　提示された課題を意識し、課題解決に取り組むことができる。 ○　課題の具体的なイメージをもち、自分で課題を設定し、課題解決に取り組むことができる。

(3) 研究の実際

ア　実証授業の指導の考え方

ＡＬＴとの授業で発表する内容を自分で計画し、準備やリハーサルを通して、生徒Ａが自分で課題を設定し、課題解決に取り組むことができるように、探究シートの様式の工夫と課題の設定と解決方法の見通しにおける支援を通して指導していく。課題について具体的なイメージをもつことができるように毎回の授業で提示するイラストは、ＡＬＴの表情イラストとする。表情イラストの構成は、ＡＬＴの顔と表情を表す言葉とする。資料２に本研究で使用した表情イラストを示す。第３段階では目指す表情を自分で考えるようにする。活動中に課題が意識できているかを確認するために解決方法の実行や振り返りで本時の目指す表情について尋ねる場面を設ける。



資料２　表情イラスト一覧

イ　実証授業の単元指導計画

単元名　総合的な探究の時間　余暇活動（英語）「ＡＬＴが笑顔になるお楽しみ会をしよう」

単元指導計画

段階	第１段階		第２段階			第３段階	
時数	1	2	3	4	5	6	7
目標	教師が提示した課題を意識してお楽しみ会の発表に向けた計画を立てることができる。	教師が提示した課題を意識して、お楽しみ会の準備をすることができる。	課題に関する言葉(選択肢)を用いて本時の課題を設定し、課題を意識して、お楽しみ会の準備をすることができる。			自分で課題を設定し、解決方法を考え、課題を意識しリハーサルを行う。	自分で課題を設定し、解決方法を考え、課題を意識し主体的に取り組むことができる。
学習活動	お楽しみ会の発表内容を決め、具体的な計画を立てる。	お楽しみ会の発表に向け自分で決めた内容の紹介文を日本語で書く。	インターネットや翻訳アプリを使い、日本語の紹介文を英訳する。	インターネットを使い紹介文の内容に合う画像を見つける。	自分が選んだ発表ポイントを意識し紹介文の読み練習をする。	準備したお楽しみ会のリハーサルを行う。	ＡＬＴを迎えてのお楽しみ会を実施する。
手立て	探究シートの様式の工夫、課題の設定と解決方法の見通しにおける支援						

ウ　実証授業の指導の実際と考察

(ｱ) 探究シートの様式の工夫について

全段階において、生徒Ａは、課題解決のプロセスに沿って毎時間の課題解決に取り組むことができた。解決方法の実行では、探究シートに記入した課題や解決方法を確認し見通しをもちながら、ＡＬＴへ紹介したいと思う日本アニメについて紹介文の作成や英訳、発表練習、発表本番に意欲的に取り組む様子が見られた。これは、探究シートの様式が課題解決のプロセスに沿ったものであったことにより、課題や解決方法への意識を持続させやすく、活動の見通しがもちやすかったためと考える。

(ｲ) 課題の設定と解決方法の見通しにおける支援について

ａ　第１段階（第１時、第２時）

表２　課題の設定と解決方法の見通しにおける支援

配時	①課題の設定			②解決方法の見通し
	表情イラスト	課題		モデル
1	・にこにこ笑顔 ・う～ん	全文提示	ALTがにこにこ笑顔になることを計画する。	
2	・わかった！ ・う～ん		ALTに分かりやすい紹介文を書く。	登場人物について ・詳しい紹介文 ・簡単な紹介文

提示された課題を意識し、課題解決に取り組むことができることをねらいとした。表２に、課題の設定と解決方法の見通しにおける支援を示す。①課題の設定では、２枚の表情イラストを提示し、生徒Ａが選択した後、課題を全文提示した。生徒Ａは、本時で目指すべき表情を選ぶことができた。②解決方法の見通しでは、第２時で、紹介文の内容について二つのモデルを提示すると、モデルを参考にしながら教師の発問に答え、「登場人物についてたくさん書く。」という解決方法を導き出すことができた。

表３　表情イラストに関する発問と回答の様子

配時	場面	発問内容	生徒Ａの回答	評価
1	③解決方法の実行	「知ってもらったら、ALTはどんな顔になるかな。」	無言	×
		①「ALTがどんな顔になるように（出し物を）作っていきますか。」	どう答えてよいか分からない様子	○
		②（追加発問）「『う～ん』の顔ですか。」	「にこにこ笑顔。」	
	④振り返り	「何を大切にして取り組みましたか。」	「ALTがにこにこ笑顔になること計画した。」	○
2	③解決方法の実行	「ALTがどんな顔になるような紹介文を書きますか。」	「分かったの顔。」	○
		「この紹介文を読んでALTにどんな顔になって欲しいですか。」	「分かったってなって欲しい。」	○
	④振り返り	①「ALTのどんな顔をイメージして紹介文を書きましたか。」	「にこにこ笑顔。」と探究シートに記入。	○
		②（追加発問）「授業の始めに確認した顔がもう一つありましたね。」	「わかった。」と探究シートに記入。	

提示された課題を意識できているかをみとる発問に対しては表３に示すような様子が見られた。第１時では、③解決方法の実行場面で本時の目指す表情について尋ねられた際、答えることができなかったり、追加発問が必要であったりする様子が見られた。④振り返り場面では何を大切にして取り組んだかの発問に本時の目指す表情を正答することができた。第２時では、③解決方法の実行場面で、紹介文作成前後の表情についての発問に正答することができた。④振り返り場面では、本時で目指した表情についての発問に第１時で目指した表情を探究シートに記入したが、追加発問を受けると正答を記入することができた。２時間共に追加発問が必要な場面もあったが最初の発問以外は正答し、提示された課題を意識することができていた。これは、①課題の設定で提示した表情イラストが生徒Ａにとって印象に残りやすいものであり課題への意識を持続させやすかったためと考えられる。さらに、②解決方法の見通しで、提示されたモデルについての発問に答えながら、課題について具体的なイメージをもち解決方法を考えたことも提示された課題を意識することにつながったと考える。

ｂ　第２段階（第３時～第５時）

表４　課題の設定と解決方法の見通しにおける支援

配時	①課題の設定			②解決方法の見通し
	表情イラスト	課題		モデル
3	・もっとわかった！ ・う～ん	言葉を抜いた課題と選択肢 ・分かってもらえるような ・もっと分かってもらえるような ・分かりにくい	ALTに（もっと分かってもらえるような）紹介文にする。	・日本語の紹介文 ・英語の紹介文
4	・もっともっとわかった！ ・もっとわかった！	言葉を抜いた課題と選択肢 ・分かってもらえるような ・もっともっと分かってもらえるような ・分かりにくい	ALTに（もっともっと分かってもらえるような）紹介にする。	・画像無の紹介文 ・画像有の紹介文
5	・もっともっともっとわかった！ ・もっともっとわかった！	言葉を抜いた課題のみ提示、選択肢無し 前時の課題を提示	ALTに（もっともっともっと分かってもらえるような）発表練習をする。	発表ポイントを ・意識していない発表 ・意識した発表

課題の具体的なイメージをもち、選択肢を基に課題を設定し課題解決に取り組むことができることをねらいとした。そのためにモデル提示は、②解決方法の見通しに加えて、①課題の設定でも行うこととした。前時との違いを考えられるように提示するモデルは、前時で目指したモデルと本時で目指すモデルとした。表４に課題の設定と解決方法の見通しにおける支援を示す。①課題の設定では、第３時で日本語と英語の紹介文のモデルを提示し生徒Ａが『もっとわかった！』の表情イラストを選択した後、言葉を抜いた課題と選択肢を提示した。生徒Ａは、『もっとわかった！』の表情が使われた言葉を選択肢から選び、課題を設定することができた。第４時においても同様の様子が見られた。第５時では、言葉を抜いた課題のみ提示し、表情イラストを手掛かりに自分で考える

ことができるようにした。生徒Ａは、モデル提示と教師の発問を受けて、二つの表情から本時の目指す表情を選ぶことができた。課題の設定の際、抜かれた言葉を考えることは難しかったが、教師が前時の課題を見せると本時の表情を使い、課題に合う言葉を自分で考えることができた。②解決方法の見通しでは、第３時で、二つのモデルの違いを発表し教師の発問に答えながら解決方法「紹介文を英語にする」と「分からない言葉はタブレットで調べる」を導き出すことができた。第４時においても、同様の様子が見られた。第５時では、発表ポイントが意識されたモデルを参考にして発表ポイントを自分で選び解決方法として探究シートに記入することができた。

課題の具体的なイメージがもてているかをみとる発問については表５に示すような様子が見られた。第３時では、③解決方法の実行場面で、紹介文を英訳する活動の後、目指す表情について尋ねられると、第１、２時で目指した表情を答えた。④振り返り場面では、本時で目指した表情についての発問に第１時の表情を先に答え、その後本時の目指す表情を正答した。第４時では、③解決方法の実行場面で目指す表情についての発問に正答することができたが、④振り返り場面では追加発問が必要であった。第５時では③解決方法の実行場面、④振り返り場面での表情についての発問に正答することができた。本時で目指す表情をより意識し始めているようで、④振り返りでは、発問に答える前に探究シート上に示した表情イラストを確認する様子が見られた。全時間を通して目指すべき表情を選ぶことができ、表情イラストに関する発問には追加発問が必要な場面もあったが最初の発問以外は正答したことから課題の具体的なイメージをもつことができたと判断した。これは表情イラストの表情を表す言葉の『もっと』の数を増やし高まりを表現したり、提示する二つのモデルを比較させたりしたためと考える。課題の設定については選択肢を基にしたり、前時の課題を手掛かりにしたりして設定することができた。これは、段階的な課題の提示により表情イラストやモデルを参考にしながら考えることができたためと考える。

表５　表情イラストに関する発問と回答の様子

配時	場面	発問内容	生徒Ａの回答	評価
3	③解決方法の実行	生徒Ａが英訳した紹介文を見せ、「こっちだったらALTはどんな顔になるかな。」	「分かったとにこにこ笑顔。」	×
	④振り返り	「ALTのどんな顔をイメージして紹介文を英語にしましたか。」	「にこにこ笑顔ともっと分かった。」	○
4	③解決方法の実行	画像と合わせて紹介文を教師が読んでみせた後「ALTのどんな顔を目指しましたか。」	少し考えた後「もっともっと分かったとにこにこ笑顔」	○
	④振り返り	①「ALTのどんな顔をイメージして取り組みましたか。」	「にこにこ笑顔。」	○
		②（追加発問）「にこにこ笑顔と。」	「もっともっと分かった。」	
5	③解決方法の実行	「ALTのどんな顔を目指して発表練習をしますか。」	「もっともっともっと分かった。」	○
	④振り返り	「ALTのどんな顔をイメージして取り組みましたか。」	「もっともっともっと分かった。」 ※探究シートの表情イラストを確認し答えた。	○

ｃ　第３段階（第６時、第７時）

課題の具体的なイメージをもち、自分で課題を設定し、課題解決に取り組むことができることをねらいとした。①課題の設定において課題の提示はせず生徒Ａが本時の目指す表情を自分で考え、考えた表情イラストを基に課題を設定するようにした。表６に課題の設定におけるやり取りを示す。第６時で、生徒Ａはこれまでの表情を振り返り、本時で目指す表情を考えることができた。課題については自分で考えることは難しかったが、課題の書き出し方を伝えられると、自分が決めた表情を用いて設定することができた。第７時では、第６時と同様の表情を答えた。これは、生徒Ａが単元を貫いて目指す表情として『にこにこ笑顔』を捉えていたためと考える。課題については、自分で考えることは難しかったが、教師が課題の書き出し方について尋ねると「ＡＬＴが。」と答え、目指す表情の言葉を用いて自分で課題を設定することができた。２時間共に教師の言葉掛けや発問を手掛かりに、自分が考えた表情イラストを基に、課題の具体的なイメージをもち、自分で課題を設定することができた。これは、これまで提示した表情イラストが理解しやすいものであり、更に、第２段階までの段階的な課題の提示によって、表情イラストの表情を表す言葉を使って課題を設定することができることを理解していたためと考える。

表６　課題の設定におけるやり取り

配時	教師	流れ	生徒
6	①「ALTのどんな顔を目指してリハーサルしますか。」	→	②「にこにこ笑顔。」
	③「自分で今日の課題、頑張ることを考えてみましょう。」	→	④本時の課題を表情の提示だけで考えることは難しかった。
	⑤書き出し方提示及び目指す表情を再確認。	→	⑥自分で課題「ALTがにこにこ笑顔になるような発表の練習をする」を考えることができた。
7	①「ALTのどんな顔を目指してお楽しみ会をしますか。」	→	②「にこにこ笑顔。」
	③「自分で今日の課題、頑張ることを考えてみましょう。」	→	④本時の課題を表情の提示だけで考えることは難しかった。
	⑤「（課題は）いつもどんな書き出し方で書いていましたか。」	→	⑥「ALTが。」と答え、その後自分で課題「ALTがにこにこ笑顔になるような発表をする」を考えることができた。

(4) 全体考察

課題の設定における生徒Ａの変容（表７）と実証授業後に実施した課題解決に関するアンケート結果（表８）を示す。課題の設定において、生徒Ａは第２段階までで目指す表情を選んだり、表情イラストを基に課題を設定したりすることができるようになった。これは、目指す表情イラストを２択から選んだり表情を表す言葉に基づいた選択肢を用いて課題を設定したりしたことで、目指す表情イラストと課題のつながりを理解することができたためと考える。さらに、第３段階で目指す表情を自分で考えたり、課題を自分で設定したりすることができるようになった。これは、表情イラストの構成が、生徒Ａにとって理解しやすく、その表情イラストを繰り返し提示し、表情に基づいた課題を設定するようにしたことで、生徒Ａがイラストと課題のつながりの理解を深めることができたためと考える。このことは、表８①②の回答からもみとることができる。また課題を意識できるようになったことで、活動への意欲も高める効果があることが分かった。課題解決への取組においては、全段階において解決方法の見通しに沿って実行できた。これは、イラストやモデル提示及び課題や解決方法を常に確認できる探究シートの様式の工夫により、生徒Ａが課題の具体的なイメージや解決方法の見通しをもち、課題への意識を持続できたためと考える。さらに、表８③の回答より解決方法を導き出したことが、課題を達成するために何をすればよいかの理解を促したと考える。また、実証授業後に英語に対する自信や興味・関心についてのアンケートを実施した（表９）。生徒Ａは全てのアンケート項目で授業前よりそう思うと回答した。これは、探究シートを活用しながら課題解決をするという毎時間の成功体験の積み重ねが、英語に対する自信や興味・関心の高まりにつながったためと考える。以上のことから、探究シートの活用は、生徒Ａが自分で課題を設定し課題解決に取り組む上で有効であったと考える。

表７　課題の設定における変容

段階	配時	生徒Ａの様子
1	1	二つの表情イラストから目指す表情を選び、提示された課題を確認した。
	2	
2	3	二つの表情イラストから目指す表情を選んだ後、３択の選択肢から表情を表す言葉が使われた言葉を選び課題を完成させることができた。
	4	
	5	二つの表情イラストから目指す表情を選んだ後、前時の課題を参考に抜かれた言葉を自分で考え、課題を完成させることができた。
3	6	目指す表情を自分で考え、教師から課題の書き出し方を聞いて、自分で課題を設定することができた。
	7	目指す表情を自分で考え、自分で課題の書き出し方を思い出し、課題を設定することができた。

表８　課題解決に関するアンケート結果

質問内容	生徒Ａの回答
①毎時間の授業で目指す表情イラストを考えたことについて（選択肢から回答）	最初はどんな顔を目指せばよいか分からなかったが、だんだん分かるようになった。
②表情イラストを基に本時の課題を考えたことについて（自由回答による生徒Ａの言葉）	意識ができるようになった。目標（今日の課題）を決めることによって、今日これからこれを頑張ろうという気持ちになった。
③解決方法を導き出したことについて（選択肢から回答）	今日の課題を達成するために、準備、発表練習、リハーサル、お楽しみ会で何をすればよいかよく分かった。

表９　英語に対する自信や興味・関心についてのアンケート項目

アンケート項目
外国の人ともっと話したい。（日本のアニメや各国の文化について）
色々な国について調べてみたい。
翻訳アプリを使って分からない言葉を調べることができる。
自分のことや自分の好きなことを外国の人に紹介することができる。
ALTの国のことが分かったり、英語でアニメの紹介文を発表したりして自分の視野を広げることができた。

(5) 研究の成果と今後の課題

ア　研究の成果

○　課題解決のプロセスを一枚にまとめた探究シートの様式の工夫は、生徒Ａが考えた課題や解決方法に対して意識を持続させ、見通しをもって課題解決に取り組む上で有効であった。

○　課題の設定と解決方法の見通しにおける支援は、生徒Ａが課題の具体的なイメージをもち、自分で課題を設定したり、解決方法の見通しをもったりする上で有効であった。

イ　今後の課題

○　本研究で取り組んだ探究シートの活用を各教科等を合わせた指導等においても実証を試み、課題解決に向けた学習のための探究シートの活用の般化を図っていきたい。

＜参考文献＞

・ 今枝　史雄 他(2017)「成人期知的障害者の自己決定と問題解決能力との関係からみる学習支援」『東京学芸大学教育実践研究支援センター紀要 第13集』 p. 115 東京学芸大学教育実践研究支援センター

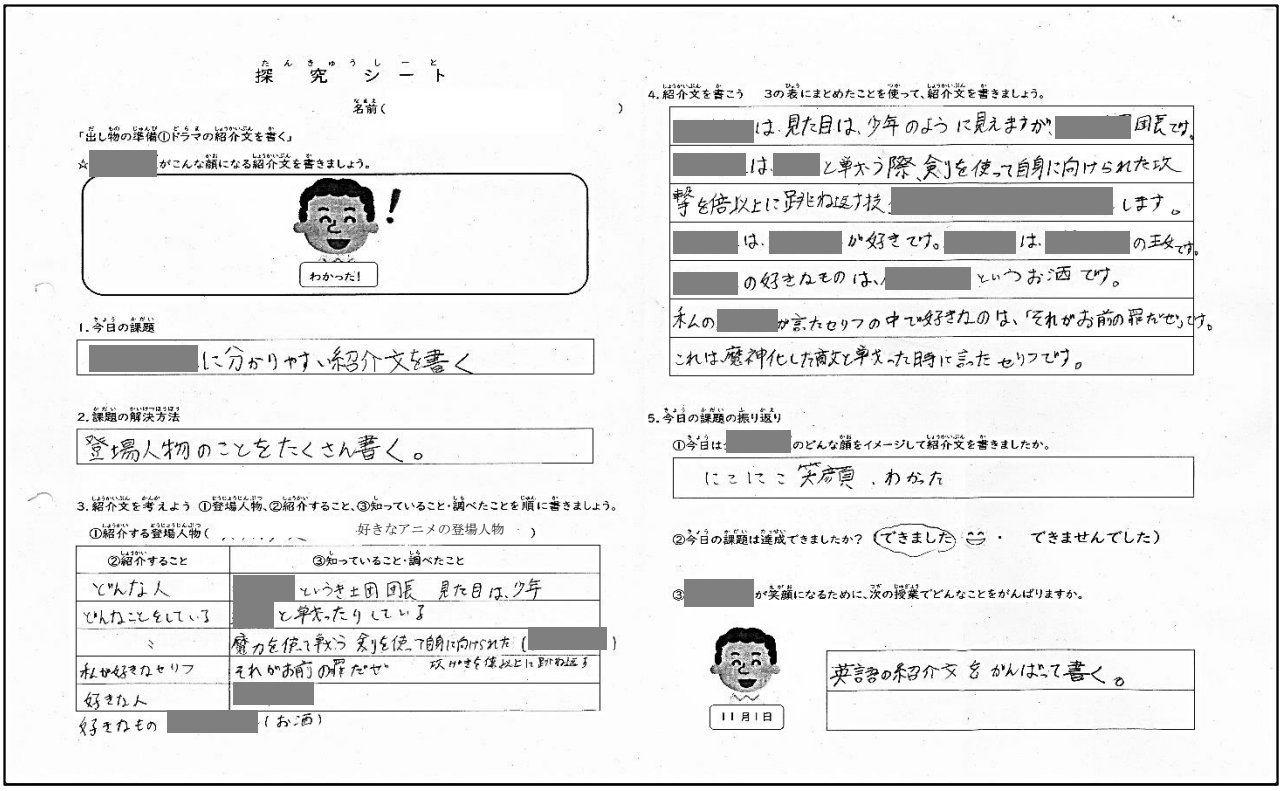
・ 今枝　史雄 他(2017)「知的障害者の問題解決能力の形成に向けた学習支援とその課題」『東京学芸大学紀要　総合教育科学系』vol. 68 p. 447 東京学芸大学学術情報委員会

・ 葉石　光一 他(2015)「知的障害者の実行機能と支援実践の課題」『上越教育大学特別支援教育実践研究センター紀要 第21巻』p. 41 上越教育大学特別支援教育実践研究センター

【添付資料】

○　教材の具体

・探究シート（第２時）



探究シート

名前（　　）

「出し物の準備①ドラマの紹介文を書く」

☆[redacted]がこんな顔になる紹介文を書きましょう。

わかった！

1. 今日の課題

[redacted]に分かりやすい紹介文を書く

2. 課題の解決方法

登場人物のことをたくさん書く。

3. 紹介文を考えよう　①登場人物、②紹介すること、③知っていること・調べたことを順に書きましょう。

①紹介する登場人物（　　）　好きなアニメの登場人物（　　）

②紹介すること	③知っていること・調べたこと
どんな人	[redacted]というき土団団長　見た目は、少年
どんなことをしている	[redacted]と戦ったりしている
〃	魔力を使って戦う　剣を使って自身に向けられた（[redacted]）
私が好きなセリフ	それがお前の罪だぜ　攻撃を倍以上に跳ね返す
好きな人	[redacted]

好きなもの [redacted]（お酒）

4. 紹介文を書こう　3の表にまとめたことを使って、紹介文を書きましょう。

[redacted]は、見た目は、少年のように見えますが、[redacted]団長です。
[redacted]は、[redacted]と戦う際、剣を使って自身に向けられた攻撃を倍以上に跳ね返す技[redacted]します。
[redacted]は、[redacted]が好きです。[redacted]は、[redacted]の王女です。
[redacted]の好きなものは、[redacted]というお酒です。
私の[redacted]が言ったセリフの中で好きなのは、「それがお前の罪だぜ」です。
これは魔神化した商女と戦った時に言ったセリフです。

5. 今日の課題の振り返り

①今日は[redacted]のどんな顔をイメージして紹介文を書きましたか。

にこにこ笑顔、わかった

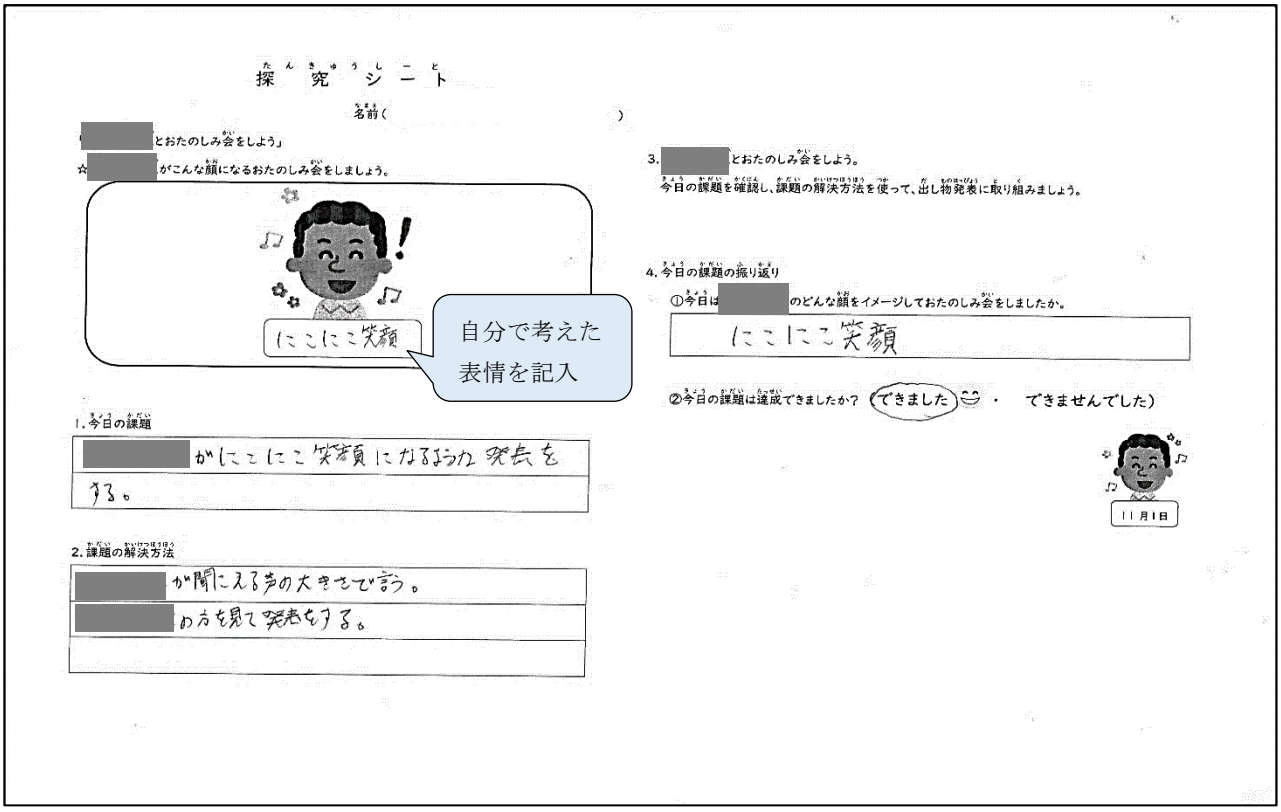
②今日の課題は達成できましたか？（できました　・　できませんでした）

③[redacted]が笑顔になるために、次の授業でどんなことをがんばりますか。

11月1日

英語の紹介文をがんばって書く。

・探究シート（第７時）



探究シート

名前（　　）

「[redacted]とおたのしみ会をしよう」

☆[redacted]がこんな顔になるおたのしみ会をしましょう。

にこにこ笑顔

自分で考えた表情を記入

1. 今日の課題

[redacted]がにこにこ笑顔になるような発表をする。

2. 課題の解決方法

[redacted]が聞こえる声の大きさで言う。
[redacted]の方を見て発表をする。

3. [redacted]とおたのしみ会をしよう。

今日の課題を確認し、課題の解決方法を使って、出し物発表に取り組みましょう。

4. 今日の課題の振り返り

①今日は[redacted]のどんな顔をイメージしておたのしみ会をしましたか。

にこにこ笑顔

②今日の課題は達成できましたか？（できました　・　できませんでした）

11月1日

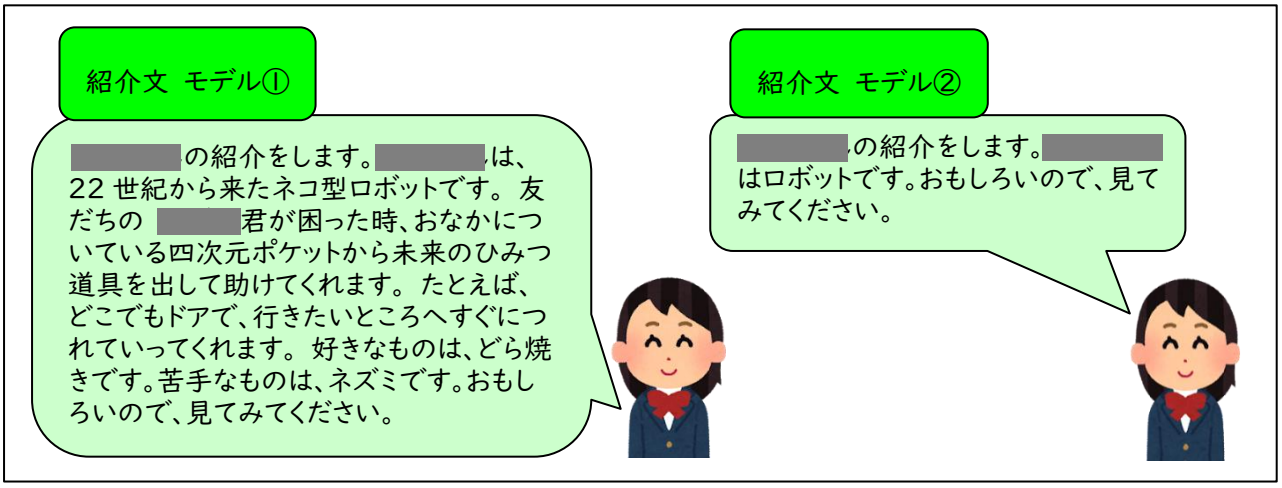
※ [redacted] は、ＡＬＴの名前、アニメの登場人物や技や飲み物の名前

・課題の発見・課題の理解を促すイラスト提示

第１・２段階	第３段階
生徒が２択から選んだものを提示した。	生徒Ａが自分で決めた表情を提示した。

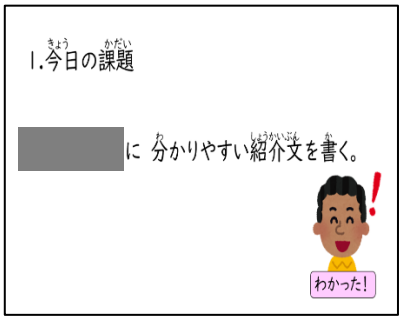
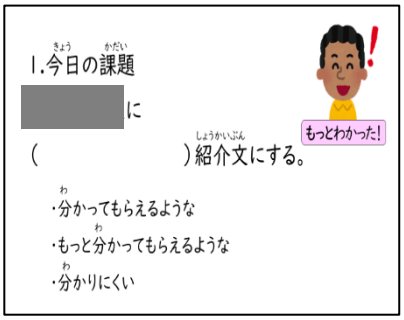
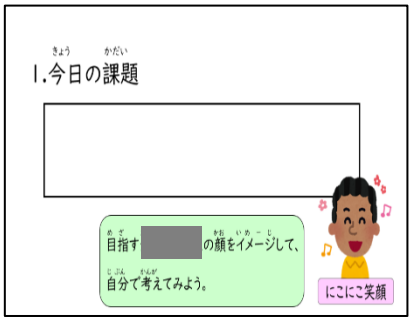
・課題や解決方法に関するモデル提示（第２時）

課題の具体的なイメージをもてるようなモデルとそうでないモデルを提示した。



※ [redacted] は、アニメの登場人物

・段階的な課題の提示

第１段階	第２段階	第３段階
		
目指す表情を確認後、全文提示する。	目指す表情を確認後、課題と目指す表情に基づいた言葉の選択肢を提示する。	目指す表情を確認後、これまでの表情を参考に自分で課題を考える。

※ [redacted] は、ＡＬＴの名前